



〈本郷キャンパス〉

学校法人文京学園
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉

文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

3キャンパス入学式晴れやかに

満開の桜に祝福されて、平成最後の入学式・入園式が、各キャンパスで順次執り行われました。幼稚園から大学院、文京生涯力レッジを含む1809名が、文京学院での新たな学びをスタートさせました。

4月2日「大学院 大学」



写真提供：スタジオ・トナミ



写真提供：スタジオ・トナミ

桜井学長式辞
これからの4年間あ
るいは2年間、何か明
確な目標を掲げて、そ
れに向かって進んでく
ださい。現代のグロー
バル時代を力強く生き
抜く力を身に付けるべく、
有意義な学生生活を送
ることを願います。

桜井隆学長の式辞に続
き、駐日ブラジル共和国特
命全権大使タツエトレイ
ヤ・マスイ閣下が祝辞を述
べました。
続いて、文京学院大学後
援会の加藤幸信会長、文京
学院校友会の大石理栄子会
長、桜英会の匠春香会長、
あやめ会の森田順子会長、
ふじみ野会の須田正美会
長、未医志会の眞野容子副
会長が来賓として紹介され
ました。教員紹介に続き
「歓迎の言葉」は、在学生
代表の熱田詩織さん。それ
に次いで、次の新入生が
「My Statement」を通じて、
本学で成し遂げたい夢や達
成したい目標を表明しまし
た(敬称略)。

経営学部、外国語学部、
人間学部、保健医療技術学
部4学部と、大学院経営学
部研究科、外国語学研究科、
人間学研究科、保健医療科
学研究科4研究科の合同入
学式が「東京ドームシティ
ホール」で行われ、総勢1
280名の新入生が緊張の
面持ちで出席しました。
本学内外での在学生の活
動の様子が放映された後、
新田都志子学長補佐・経営
学部教授の司会で開式。在
学生の小原実緒さんのピアノ伴奏により、本郷キャン
パス「Bunkyo Glee Club」、
「五街道ウォーク」学生実
行委員、ふじみ野キャンパ
ス「手話サークル あしの
会」のリードで国歌・校歌
斉唱。

閉式後、司会をふじみ野
キャンパス学生会の徳永
隼士さんにバトンタッチ
し、新入生歓迎パフォーマンスがスタート。本学のキ
ャラクター「tomocha
ん」の出現に、一同の緊張
が解けました。パフォーマンスは、本学の「Bunkyo
Glee Club」、「手話サーク
ルあしの会」、「B-GANG」、
東京藝術大学の「Gritol」、
新入生一同、パワフルなパ
フォーマンスに圧倒された
様子でした。

4月6日
「中学校」
皆さんには、大切な
ものを見逃さない「心
の目」をもって欲しい
と思います。文京での
6年間の生活が、新入
生の皆さんの人生の中
で、決して忘れること
の出来ないものとなり
ます事を心より祈念し
ております。
高石和人中高一貫部副校
長の司会により、仁愛ホー
ルで開式。合唱部の清らかな歌声と共に、一同、国
歌・校歌を斉唱しました。



水上中高一貫部校長式辞

4月6日
「小学校」
水上茂中高一貫部校長と
島田輝子学園長の式辞に続
き、後援会・ふじ会の豊泉
庸会長と同窓会・鏡友会の
高島宏子会長が祝辞。文京
学院校友会・大石理栄子会
長、鏡友会役員ら来賓紹介
後、在校生代表の高橋蘭さ
んが歓迎の言葉、新入生代
表の鈴木乃彩さんが誓いの
言葉を述べました。
続いて、島田学園長、島
田昌和理事長、清水秀樹監
事をはじめ、水上中高一貫
部校長、清水直樹高等部校
長、高石中高一貫部副校
長、雨宮正典高等部副校
長、佐藤泰正高等部教頭、
松本卓哉中高一貫部副教頭、
北野啓子校務担当、中一担
当の伊藤久美子学年代表、
内藤康恵教諭、稲山幸奈教
諭、沢柳優子教諭、瀧澤
裕太教諭、中1学年サポ
ート・酒井陽中高進路支援
部長、同・八東桂子養護教
諭が紹介されました。
閉式後には、合唱部の歌
声と吹奏楽部の演奏が披露

4月6日
「高校」
清水高等部校長式辞
3年後の成長した自
分自身をしっかりとイ
メージして、高校生活
のスタートを切ってく
ださい。皆さんが、こ
の文京学院で自尊心を
高め、多様性を築しみ、
発信力を磨くことで大
きく成長していくこと
を期待します。
高石和人中高一貫部副校
長の司会により、仁愛ホー
ルで開式。国歌・校歌を唱
え、清水直樹高等部校長、
島田輝子学園長が式辞、続



清水高等部校長式辞

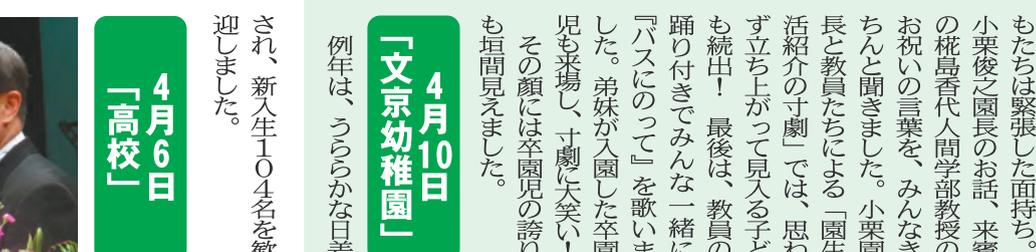
4月10日
「文京幼稚園」
小栗俊之園長のお話、来賓
の椛島香代人間学部教授の
お祝いの言葉を、みんなき
ちんと聞きました。小栗園
長と教員たちによる「園生
活紹介の寸劇」では、思わ
ず立ち上がって見入る子ど
も続出！最後は、教員の
踊り付きでみんな一緒に
「バスにのって」を歌いま
した。弟妹が入園した卒園
児も来場し、寸劇に大笑い！
その顔には卒園児の誇り
も垣間見えました。
年71名、年中3名の新
入園児が保護者と手をつな
いで園ホールに入場。保護
者の隣に座りながらも、子ど
も垣間見えました。

4月10日
「文京幼稚園」
新入園児は、年少児のみ
の66名。とても落ち着いた
態度で、益田薫子園長のお
話をしっかりと聞きました。
島田輝子学園長、島田昌
和理事長が来賓として出
席し、島田理事長が「現3
歳児は22世紀まで生きる
でしょう。しっかりと生
きる力をもった子どもを
育てていきましょう」と保
護者に語りかけました。

4月3日
「文京生涯力レッジ」
大橋早苗アシスタントマ
ネジャーの司会により、ス
カイホールで開式。森岡俊
也生涯学習センター所長、
本郷キャンパスディレクタ
ーと、島田輝子学園長・生
涯学習センター名誉所長の
挨拶に続き、保健医療技術
学部作業療法学科の長崎重
信教授が、自身の故郷であ
る新潟県の偉人・上杉謙信
の「義を軸に講話しました。
学びの意欲に溢れた社会
人新入学者60名の代表とし
て、澤部次郎さんと栗原恵
子さんが挨拶。第18期生
としての想いを熱く語りま
した。平均年齢62・0歳の
学びの達人たちの文京学院
ライフが、晴れやかにスタ
ートしました。



挨拶する小栗園長



挨拶する益田園長



挨拶する島田園長



文京生涯力レッジ第18期生 入学おめでとうございませう

4月6日 「ふじみ野幼稚園」

また緊張した面持ち。
小栗俊之園長のお話、来賓
の椛島香代人間学部教授の
お祝いの言葉を、みんなき
ちんと聞きました。小栗園
長と教員たちによる「園生
活紹介の寸劇」では、思わ
ず立ち上がって見入る子ど
も続出！最後は、教員の
踊り付きでみんな一緒に
「バスにのって」を歌いま
した。弟妹が入園した卒園
児も来場し、寸劇に大笑い！
その顔には卒園児の誇り
も垣間見えました。

副学長 保健医療技術学部教授 福井 勉



Green Spirits 在外研究の経験を活かして
昨年度、カナダのウエス
タン大学とニュージール
ランドのオタゴ大学に在外研究
で行かせていただきました。
バナナを食べながら連
転するバスのドライバ
ーや、入れ墨が腕全体
に入っている警官に多
少ギャップを感じなが
らも、この感覚ギャッ
プと多様性の受容が人
間性拡大修行と思っ
ておりました。
大学院生は世界中か
らきており、オタゴ大
学に至っては半分以上
が海外からの学生で
す。彼らに学位取得後
の仕事の聞くと、これ
また世界中のどこかで
働きたいという答えが
多く、少々考えさせら
れました。ニュージール
ランドは18カ国目の理
学療法見学でしたが、
「海外の理学療法は日
本より優れている」と
聞かされた30年前とは
異なる風景を感じまし
た。端的に表現すると
国より大きい個々の違
いです。自国の政情不
安と経済面から家族の
期待を背負って留学して
きた大学院生は「奨学金でカ
バーされる期限が迫り、朝
早くから夜遅くまで必死に
頑張る」、国によらない姿
を見せられました。また
オタゴ大学の教員で職場異
動をする方が壮行会で、「こ
れからはこの本のように生
きて行きたい」とベストセ
ラーとなった『IKIGAI』
について話してくれたこと
もありました。日本の誇る
べき文化について海外の方
が書かれた書籍です。「P-
rofessional Consolidation
(専門知識の統合)」という
タイトルのコース終了直前
の講義に参加したときには、
ベテランの理学療法
士の体験談や大学院
生の臨床実習後のモ
チベーションについ
て、自分は日本にい
るのかと思うほど同
一性を感じました。
このように自分の中
の狭い、多様性の解
釈はこの一年で揺り
動かされ、「本当に
大事なものは何なの
か」という極めて当
たり前のところを行
き来した気がします。
多様性の受容と深く
関係するのは「Name
or reference (基準性)
の大きさ」と自分の位
置認知であり、メタ
認知(自分自身の認
知)そのものです。
人は違うものであつ
て、それを現実面に
向ければ国内や大学
内の事象にも大いに
当てはまります。仕
事をやりやすく楽し
くするのは努力が
必要で、一歩深いコミュニケ
ーションが自己位置認知と
人間性拡大に寄与すると感
じています。副学長を命じ
られました。教職員のコミ
ュニケーションとモチベ
ーションに微力ではありま
すが努力をする所存です。

高大 「SAGE JAPAN」で「審査員特別賞」

「第6回SAGE JAPAN CUP」(主催=SAGE JAPAN/清水愛代)が3月24日、紀伊國屋サザンシアターで行われ、本校が「審査員特別賞」を受賞しました。

「SAGE」(Global Students for Advancement of the Global Entrepreneurship)は、若者の起業家精神を育むことを目的とした国際的な教育プログラムで、2002年にアメリカで設立。日本では、2013年にSAGE JAPANが設立され、東京都教育委員会と毎日新聞が後援しています。

これは、高校生が自分自身の身の回りの問題について模索し、大学生や企業の補助や指導などのサポートを受けながら、社会貢献や起業に焦点をあてた事業を計画・実践することによって、社会問題への関心を高め、問題解決能力や提案力を身につけていくプログラムです。今回は、高校生と大学生

が二人三脚でSDGsに挑むをメインテーマに7校がプレゼンを競いました。

本校からは国際教養コース1年(当時)の齊木奈々さん、成田彩菜さん、松尾美亜香さん、須貝沙紀さん、澤登あすかさんによるチーム「The Hungry」が「保冷剤で世界を救え!!」をテーマに登場。それに先立ち、経営学部の新田都志子教授、馬渡一浩教授はじめ、新田ゼミ4年(今春卒業)の伊藤琴音さんと佐久間百花さん、馬渡ゼミ3年(当時)の菅野結女さんと稲葉愛華さんが5名の高校生に寄り添い、誠心誠意サポートしました。

本校生徒は「保冷剤に含まれる高吸水性ポリマーが臭いを吸着する特性を活かして消臭剤に変えて商品化し、その売上げを専門機関を通じて飢餓に苦しむネパールに寄付。全国のSGH指定校179校や、本校の海外姉妹校にもこの活動を

展開し、世界に広めて飢餓で苦しむ人々を一人でも減らしたい」と発表。どの家庭にもある保冷剤に着目し、世界に視野を広げた点が評価され、今回特別枠として「審査員特別賞」を受賞！伊藤芳明審査委員長(毎日新聞論説特別顧問)写真右より賞状が贈られました。5名は次のように想いを語りました。

「松尾 入賞校の発表が終り、審査員の講評中に私たちが「審査員特別賞！」と言われて驚きました。特別枠として選ばれたことをとてもうれしく思いました。どの家庭にも保冷剤はあると思いますし、実際に保冷剤の廃棄量が多いことから、無駄にならないように、まず皆さんに実際に作ってほしいと思います。」

「須貝 企画書の段階から、新田先生と馬渡先生が的確な指導をしてくださいました。大学生サポーターの皆さんが、プレゼンの心構えや感情の入れ方、言葉のイントネーションなどの具体的なアドバイスがくさりありがたかったです。今回、飢餓に対する世の中の問題意識が足りないというところを感じたため、このプレゼンが皆さんの記憶に少しでも残ればいいなと思います。」

「成田 プレゼンの第一声が、本番では緊張せず発表できました。今回「やってみようと思ったことをそのままにするとそれだけで終わってしまうので、実践することが重要である」と思いました。成果が出れば達成感に繋がりますが、何よりも自分の経験を

を増やせることが良いと思います。

「澤登 他の学校の発表では、現地を見たり企業に向いて交渉したりと、広い活動をしていることがわかりました。ネパールへの寄付を考えた時に、そのパイプ役となる機関があることがわかりましたので、私たちが訪問すれば、もっと良いプレゼンができたと感じました。私たちは「高校生でもできること」をテーマに取り組んできたため、保冷剤には関わりなく「これ」と思うことがあれば、今後も積極的に挑戦したいです。

大学生サポーターの代表として、菅野さんは次のように話しました。



受賞を喜ぶ(左から) 齊木さん、成田さん、松尾さん、須貝さん、澤登さん



「文京学院ではAnime Japanをはじめ様々なフィールドワークや、ゼミなど実践的な活動を通じて、幅広く学ぶことができてきました。今回は、それらを高校生に返すという気持ちで臨みました。高校1年生ということで、まずはグループワークや情報収集のやり方から入り、プレゼンや質疑応答の方法など全般的にアドバイスしました。プレゼンの組み立て方に苦戦していましたが、高校生が伝えたい内容を本番で伝えられるようにサポートしました。高校生が時間のない中

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

高校 「カワサキ・ルーセント杯」で準優勝!

千葉県の「白子テニスリゾート」を借り切り、総数200校以上の全国規模の男女ソフトテニス部が競う「カワサキ・ルーセント杯全国選抜ソフトテニス研修大会」(3/27~29)で、本校は「準優勝」を勝ち取りました。

同大会は、予選から10校規模のリリーグ戦が用意され、2日間様々な地方の選手と戦います。3日目には、その順位による決勝トーナメントで優勝校を決定。本校はA・B・Cの3チームがエントリーし、新年度を占う戦いに臨みま

した。予選は各チームとも練習の成果を見せ、Aチームは全勝、Bチームは1敗のみ、Cチームも勝ち越しの4勝3敗で全チーム勝利先行の結果となりました。

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭



準優勝を勝ち取った選手たち



勝利を目指して戦う選手たち

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

ここから切ってきたペアが、優勝を目指して最後まで戦い切りました。残念ながら相手を押さえきれず、優勝できませんでした。決勝戦進出でした。

中学 「東京都女子サッカー中学校大会」6年ぶりに優勝!

4月1日、東金町運動場で開催された「東京都女子サッカー中学校大会」で、本校は6年ぶりに「優勝」を飾りました。

同日の決勝戦では、6年前と同じく修徳中学とPK戦になり、キッカー全員が力強く決めて栄冠を勝ち取りました。

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭

「この取り組みを通して具体的な高大連携の新しい一歩を踏み出すことができたとこそが成果と言えます。ここに至るまでには、SGH教育センター担当、また担任として、丸山香奈教諭(副センター長)、中川由美子教諭、加藤碧教諭



雪の中でのミズノフットボール大会



大活躍の中学サッカー部



「東京都女子サッカー中学校大会」で優勝に沸く選手たち